

# 景観 こぼれ話

## 加太の祭り

毎年3月に行われる淡島神社の「雛流し」は、願いを込めて雛人形を海に流す行事で、雛人形に想いを託す多くの人が集まります。5月の加太春日神社のえび祭りでは、神輿や獅子舞がまちの中を練り歩きます。

その他にも、地元の「活性化協議会」によって、鯛祭りが開催され、また小学生が「加太の鯛」を唄いCDをつくるなど、加太地区を盛り上げるための楽しい取組が行われています。



上：淡嶋神社の行事「雛流し」の様子  
左：地元小学生が唄う歌が入ったオリジナルCD「加太線ミュージック」



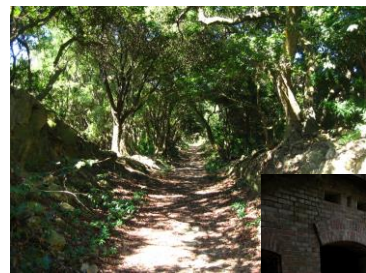
## 淡嶋街道

淡嶋街道は、かつて大和の都人が淡路島や四国、九州へと辿ったといわれる道で、重要な道でした。加太春日神社の前などまちの中心部を歩いて、本瓦や格子戸など当時の名残をとどめた白壁の家屋が立ち並ぶ地区もあり、漁師町の風情が感じられます。

淡嶋街道沿いに残る、趣のある建物と道しるべ

## 友ヶ島 ～アニメの聖地～

いま友ヶ島に、若者が集まってきています。映画「天空の城ラピュタ」やゲーム「ドラゴンクエスト」の中の世界を彷彿とさせる「異世界」があるからだそうです。訪れた人から世界に向けて、インターネットなどを通じて発信されています。意外なところから地域の資源が見直されつつありますね。



上：友ヶ島の「けもの道」  
右：第3砲台跡



# わかやまし 景観ガイド

魅力  
満載！

上：四国山山頂から海への眺め 下：淡嶋神社

## 北西部地域の景観

北西部地域には、加太・友ヶ島と、少し東に位置する磯ノ浦海水浴場・西脇漁港、そして山麓の高台に位置する住宅地などがあります。

加太は、紀淡海峡に面して美しい海岸線が続く景勝地で、万葉の時代から瀧見（形見）の浦と歌に詠まれてきました。地域の人に大切にされてきた歴史的な社寺や行事などが身近にあり、漁師町の風情が感じられます。友ヶ島はありのままの自然や遺構が、他にはない独特の風景をつくり出しています。

磯ノ浦海水浴場はサーフィンのメッカとして知られ、季節を問わず波を楽しむ人でにぎわいます。西脇漁港は釜揚げシラスで有名で、加工所などが漁港らしさを感じさせます。

高台の住宅地からは、海から紀の川や市街地まで、変化に富んだ眺望を楽しむことができます。



### 問い合わせ先

和歌山市 産業まちづくり局 都市計画部 都市再生課  
〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地 Tel(直通)： 073-435-1048



# 魅力マップ

～北西部～

## 南海加太駅

南海電気鉄道加太線の終着駅で、加太地区の玄関口です。明治45年(1912年)に開設されました。開設以来大きく変わらない、駅舎の洋風の外観も魅力的です。



## 常行寺

境内のビャクシンは、樹齢400年以上になる巨木で、県の天然記念物に指定されています。堀越しにも見え、地域のランドマーク的な存在となっています。



また寺の大きな屋根も、まちなみのアクセントとなっています。

## 加太春日神社

慶長元年に建てられた社殿は、彫刻が豪華を極め、構造なども安土桃山時代の特徴を表わしています。国の重要文化財です。



地元の氏神として信仰を集める神社で、えび祭りが執り行われます。

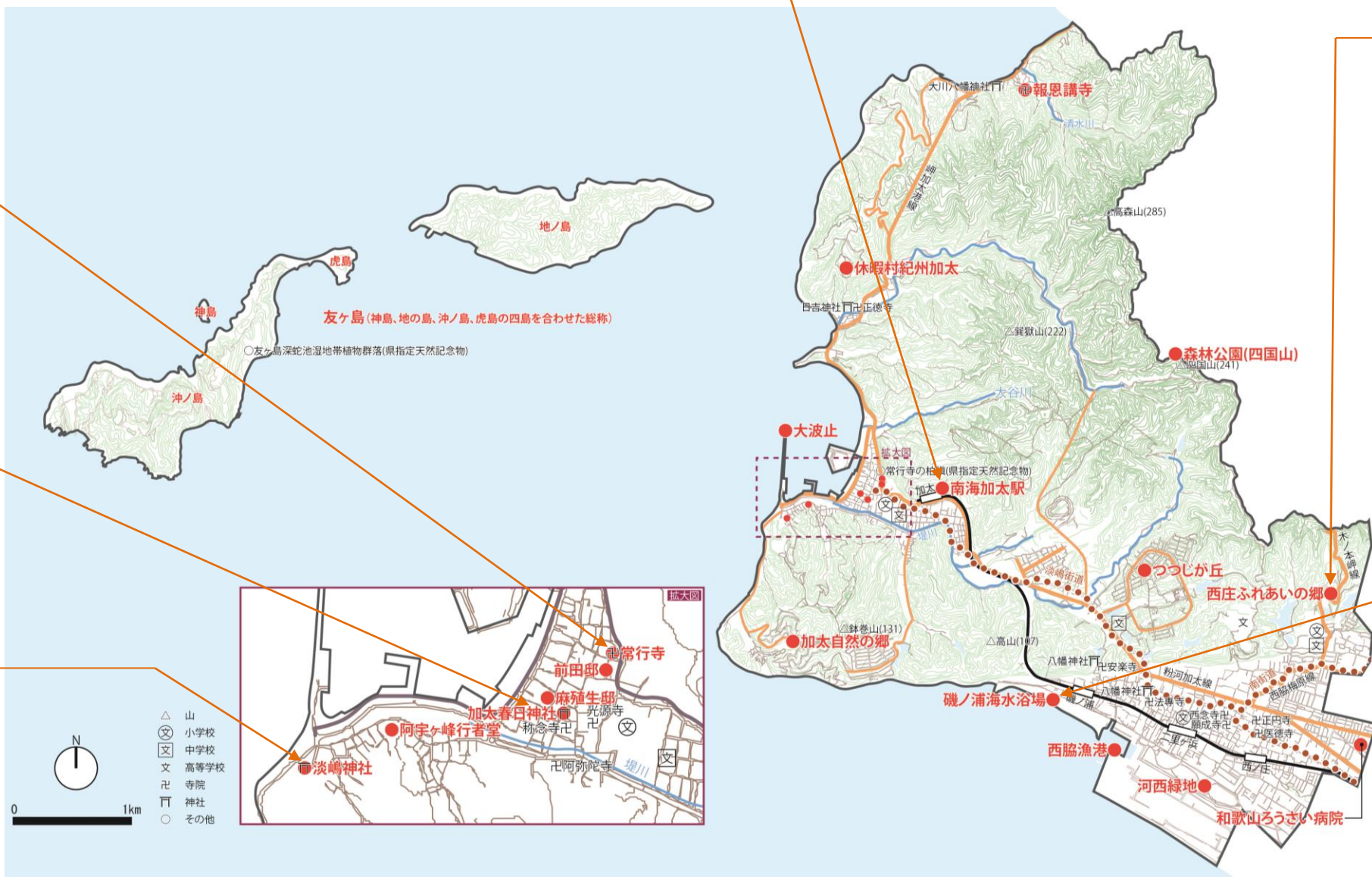
神社の前は淡嶋街道が通り、商店が並んでいます。

## 淡嶋神社

全国にある淡島(嶋)神社(粟島神社・淡路神社)の総本社で、加太の海沿いにあります。



人形供養で知られ、3月3日にはひな流しが盛大に開催されることで有名です。



## 西庄ふれあいの郷

ラベンダーやローズマリー、ミントなど50種類以上約3万6千本のハーブが植えられている、ガーデンと公園が一体となった施設です。

色々な種類のハーブが、目と鼻を楽しませてくれます。



## 磯ノ浦海水浴場

関西では数少ない自然の砂浜の海岸で、高い波が上がることから、大阪から一番近いサーフポイントとして、多くの人々がサーフィンを楽しみます。

万葉集に詠まれた歌が、この地を指すという説もあり、昔からよく知られた景勝地だったようです。



左上：四国山の展望台 右上：友ヶ島への眺望  
左下：海に面した高台の住宅地 右下：友ヶ島(沖ノ島)の展望台からの眺め

## コラム ダイナミック! いろいろな眺望

紀淡海峡に面しているため、色々な場所でダイナミックな眺望が得られます。

四国山には展望台があり、その眺めは地元の方に大切にされています。また加太から見る夕日は、和歌山県の夕日100選にも選ばれていて、友ヶ島の向こうに沈む夕日は格別です。

海に浮かぶ島々も景観を表情豊かにする要素となり、味わい深い風景をつくりだしています。

## コラム 漁港の風景

加太港は、江戸時代から続く伝統漁法「鯛の一本釣り」でその名が知られており、港にはたくさんの漁船が停泊しています。赤い大波止の近くでは、多くの釣り人が糸を垂らし、港の近くの宿は釣り人たちでにぎわいます。

西脇漁港でも漁船が繋がれ、ここではシラスが干されており、漁港の雰囲気を感じることができます。



左：加太港の灯台  
下：西脇漁港  
左下：シラス干しの様子